

特集！！ハルちゃんが行く！！

～林業作業現場取材～

今回は、高知県立林業学校の第1期卒業生が働く現場を取材してきました。西森さんは他業種で働いていましたが、高知県立林業学校の学生募集を知り、林業の世界に入ったそうです。卒業後の4月から津野町森林組合で働いています。



ハルちゃん

間伐をはじめ林業の現場は数ヶ月ごとに作業を終えて次の現場に変わります。西森さんが所属する班の今回の作業現場は、梶原町の中平の国有林です。

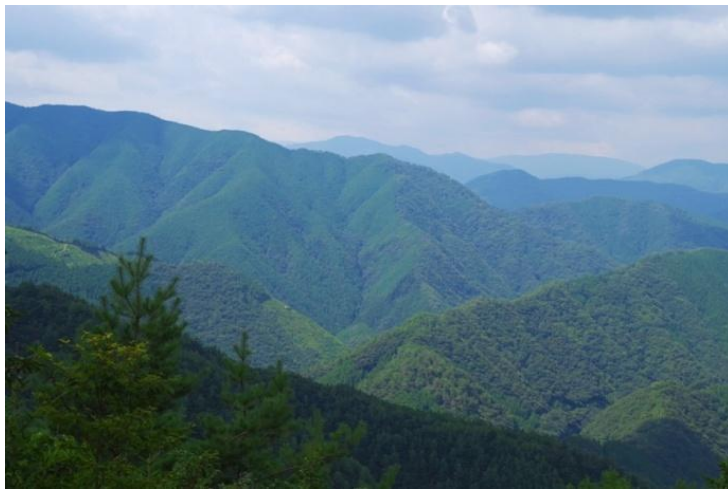
木を間伐・搬出するには、右の写真のように、まず作業するための道を作る必要があります。下のイラストのように、道をつけたい場所の支障木を伐った後ろから、バックホウで根株を除去したり、斜面を掘削して重機が通れる道を作ります。続いてその道を使ってプロセッサで倒した木の枝葉を払い、短く切って丸太にします（造材）。



上の写真は、手前の切り株の木を伐倒した直後です。伐倒方向に大きな岩があり、伐倒の際

に木が当たると傷がついて品質が低下してしまうため、伐倒方向をしっかりと見定めて慎重に伐倒していきます。西森さんの伐倒を見て、私たち見学者は「お見事！」と声をかけたほど、上手な伐倒でした。一方、西森さんは「もっとこういう風に倒したかった」と新人さんであるにも関わらず意欲を持って振り返り考えながら、次の伐倒に挑んでいました。あとで道の開設や造材の作業がしやすいよう、道になる箇所の路肩に材がまとまるように注意を払って伐倒しています。

班のベテランの方々は、『ここでの仕事が終われば数カ月ごとに働く現場が変わるし、毎回やることが違うため、毎回考えて工夫することが林業の面白さ』と教えてくれました。



左の写真は、作業現場近くからの眺めです。取材時は真夏でしたが、山は涼しく、街中では味わえない自然の良さを感じました。これも林業で働く醍醐味ですね。